

単純におもしろいから、やるんです

〈新しい伝統をつくる若者たち〉

小那覇区の新川さんの話にもできましたが、今、西原では兼久区、小那覇区、県管内間団地区の青年たちによるエイサーが注目を浴びています。昨年から三自治会合同でエイサーを披露したり、西原まつりに出演するなど意欲的に活動しています。各区のエイサーを引っ張るリーダー三人にお話を聞きました。

伊差川直樹さん（県管内間団地区）

自分は二十一歳の時、内間団地に沖縄市から引っ越してきて、今年で五年目になります。沖縄市では夏になるとエイサーの太鼓の音が聞こえてきたし、自分もエイサーをやったんで、西原では少し寂しかった。去年の四月頃かな、団地の友達二人にエイサーやってみたって話



県管内間団地区の伊差川直樹さん

しろいし友達も増えました。

今年から会長をまかされました。プレゼントもありますが、先輩にも恵まれています。みんなが力になってくれるので助かっています。

兼久は二十人くらいで練習しています。六月の半ばくらいから練習を始めて、だんだん人が多くなりますね。



兼久区の知念勇太さん

広報／いろいろ大変なこともあると思うんですが、エイサーの魅力とは何ですか

伊差川さん／そりゃ、人集めて、まとまりとか、会場のセッティングとか、大変なこともあります。やっぱり、おもしろいからやるんですよ。エイサー踊るのは楽しいし、その後、仲間で飲むのも楽しい。それにエイサーは若いうちしか

お互い競い合って

刺激になるのがいいですね

したら、乗ってくれて。はじめは話しかけただけで、団地のマラソン大会なんかで他の若い奴なんかの声かけたら、いつしよにやるって言うのが何人か出てきました。それで、団地の近くの駐車場



県管内間団地区のエイサー

で練習することになりました。はじめは近所から「うるさい」って言われたりもしましたが、迷惑にならない場所みつかりました。参加している者が他の人を誘っていきうちに、しだいに人数が多くなって十五人くらいになりました。太鼓とか衣装とか人数分必要なんで自治会に話したら予算をだしてくれました。

玉那覇昭吾さん（小那覇区）

小那覇も昨年の四月頃から始まりました。自分は浦添市の仲間青年会のエイサーに参加していて、自分たちの区でもや



兼久区のエイサー

手もったり、喜んでもらえるのが、うれしい。玉那覇さん／そうですね。単純におもしろいからやっているんです。知念さん／やはり楽しいから長く続くん

できない。今しかできないから、勧誘するときも「やるらないと後悔するよ」って声掛けしているんです。なにより、見に来てくれる人たちに拍手もったり、

広報／三自治会のエイサーは交流が盛んなようですね

三人／悩みがあれば相談できるし、なにより、お互い競い合って刺激になるの



小那覇区の玉那覇 昭吾さん

りたいなーって思ってた自治会に話したら、予算をつけてもらいました。それで仲間

知念勇太さん（兼久区）

兼久のエイサーは今年で八年目になります。自分は十七歳からエイサーをや



小那覇区のエイサー

エイサー

エイサーは、旧暦七月の盆に行われる踊りの呼称で、盆の行事に付随する芸能です。旧暦七月十六日の盆の夜、各家でウーウウ（御送り）をまじえ、男女の若者たちがそれぞれの村落の神アヤキ前に集まって太鼓を打ち鳴らし、二味線を弾き、歌を歌い、大声ではやしてなげの田陣になって踊り、それを諸神に奉納します。

次はその家庭の無病息災と家庭の繁栄を祝福し、歌を歌いながら踊り、三味線弾きが民謡曲を選んでつぎつぎ曲を変えると、それで合わせてハヤシを入れたら踊り納めます。服装は、以前は男が黒無骨にワラ鉢巻、女が白無骨または紺地に黒物にワラ鉢巻、といった軽装で、男女とも裸足でした。現在は脱ぎ出しに華やかになりつづいています。

エイサーの起源は古く明確にされていませんが室町時代の末期から江戸時代の初期にかけて本土から伝来したと伝わっています。西原町でも盆踊りや村落で盛大に行われていました。戦前、西原村でエイサーのあったところは、小那覇、兼久、掛保、内間、小橋川、津花波、良屋、小波津、安室、橋原幸地の各字です。（西原町史）参照